

# 最急降下法

宮澤 彬

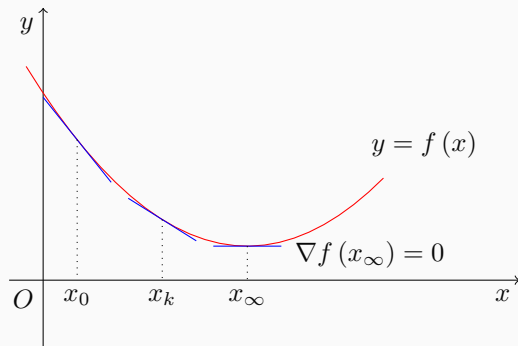
総合研究大学院大学 博士前期 1 年

`miyazawa-a@nii.ac.jp`

July 13, 2015

# 最急降下法

関数の停留点（特に極小点）を，解析的に求めること難しい場合にどのように求めればよいか．接線の傾きが負である点から，0 に近づく方向に移動していけばよさそうである．

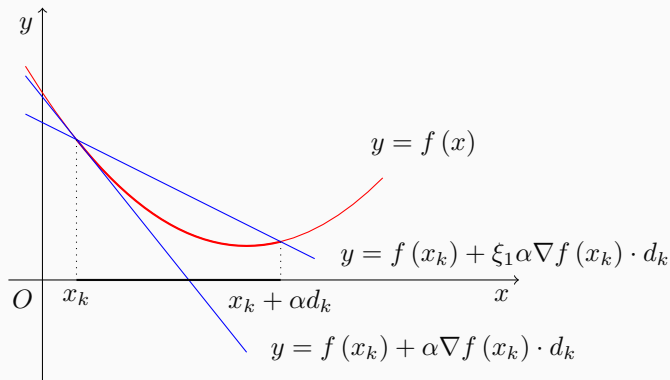


# Armijo 条件

$0 < \xi_1 < 1$  であるような定数  $\xi_1$  に対して,

$$f(x_k + \alpha d_k) \leq f(x_k) + \xi_1 \alpha \nabla f(x_k) \cdot d_k$$

を満たす  $\alpha > 0$  を選ぶ. この条件を **Armijo 条件**<sup>1</sup> という.



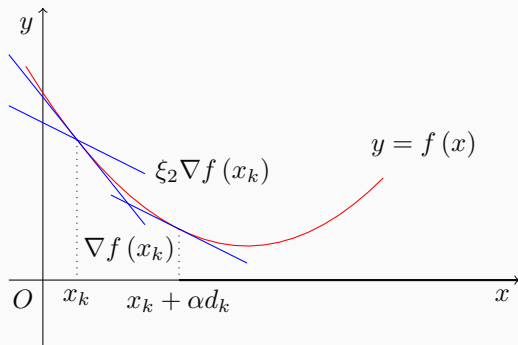
<sup>1</sup> スペイン語読みをするならばおそらく /ar'mixo/.

# Wolfe 条件

$0 < \xi_1 < \xi_2 < 1$  であるような  $\xi_1, \xi_2$  に対して

$$\xi_2 \nabla f(x_k) \cdot d_k \leq \nabla f(x_k + \alpha d_k) \cdot d_k$$

を満たす  $\alpha > 0$  を選ぶ. この条件を**曲率条件** (curvature condition) と呼ぶ. この条件と Armijo 条件を合わせて **Wolfe 条件** と呼ぶ.



# Zoutendijk 条件

**定理** 目的関数  $f(x)$  は下に有界で、かつ、初期点  $x_0$  における準位集合  $\{x; f(x) \leq f(x_0)\}$  におけるを含む開集合  $U$  において連続的微分可能であるとする。また勾配  $\nabla f(x)$  は  $U$  で Lipschitz 連続であるとする。すなわち、ある正定数  $L$  が存在して、任意の  $x, y \in U$  に対して

$$\|\nabla f(x) - \nabla f(y)\| \leq L \|x - y\|$$

が成り立つとする。

このとき  $x_{k+1} = x_k + \alpha_k d_k$  を以下の条件を満たすようにとる。

- ▶ 各  $\alpha_k$  が Wolfe 条件を満たす。
- ▶ 各  $d_k$  が降下方向である。すなわち  $\nabla f(x_k) \cdot d_k < 0$  を満たす。

すると点列  $(x_k)_k$  について

$$\sum_{k=0}^{\infty} \left( \frac{\nabla f(x_k) \cdot d_k}{\|d_k\|} \right)^2 < \infty$$

が成り立つ。

# Zoutendijk 条件

**証明** 曲率条件と  $x_{k+1} = x_k + \alpha_k d_k$  から

$$\begin{aligned}\xi_2 \nabla f(x_k) \cdot d_k &\leq \nabla f(x_{k+1}) \cdot d_k \\ (\xi_2 - 1) \nabla f(x_k) \cdot d_k &\leq (\nabla f(x_{k+1}) - \nabla f(x_k)) \cdot d_k\end{aligned}$$

が成り立つ. Lipschitz 条件より

$$\begin{aligned}(\nabla f(x_{k+1}) - \nabla f(x_k)) \cdot d_k &\leq \|\nabla f(x_{k+1}) - \nabla f(x_k)\| \|d_k\| \\ &\leq L \|x_{k+1} - x_k\| \|d_k\| \\ &\leq \alpha_k L \|d_k\|^2\end{aligned}$$

が成り立つ. これらから

$$\begin{aligned}\alpha_k &\geq \frac{(\nabla f(x_{k+1}) - \nabla f(x_k)) \cdot d_k}{L \|d_k\|^2} \\ &\geq \frac{\xi_2 - 1}{L} \frac{\nabla f(x_k) \cdot d_k}{\|d_k\|^2}\end{aligned}$$

を得る.

# Zoutendijk 条件

得られた  $\alpha_k$  を Armijo 条件に代入して

$$\begin{aligned} f(x_{k+1}) &\leq f(x_k) + \xi_1 \alpha_k \nabla f(x_k) \cdot d_k \\ &\leq f(x_k) - \frac{\xi_1 (1 - \xi_2)}{L} \frac{(\nabla f(x_k) \cdot d_k)^2}{\|d_k\|^2} \end{aligned}$$

となる. ここで  $k = 0$  から  $m$  までの和をとると

$$\begin{aligned} \sum_{k=0}^m (f(x_{k+1}) - f(x_k)) &\leq - \sum_{k=0}^m \frac{\xi_1 (1 - \xi_2)}{L} \frac{(\nabla f(x_k) \cdot d_k)^2}{\|d_k\|^2} \\ f(x_{m+1}) - f(x_0) &\leq - \frac{\xi_1 (1 - \xi_2)}{L} \sum_{k=0}^m \frac{(\nabla f(x_k) \cdot d_k)^2}{\|d_k\|^2} \end{aligned}$$

を得る.

# Zoutendijk 条件

上式の右辺は  $m$  が増加するにつれて単調に減少する. また  $f$  は下に有界であると仮定していたので

$$\sum_{k=0}^{\infty} \frac{(\nabla f(x_k) \cdot d_k)^2}{\|d_k\|^2} < \infty \quad (\text{Zoutendijk})$$

を得る. ■

上の (Zoutendijk) を **Zoutendijk 条件**<sup>2</sup> と呼ぶ.

---

<sup>2</sup> オランダ語読みをするならばおそらく /'zautəndaɪk/.



# Zoutendijk 条件

Zoutendijk 条件が成り立つとする。このとき

$S := \sum_{k=0}^{\infty} (\nabla f(x_k) \cdot d_k)^2 / \|d_k\|^2$  はある有限の値である。

Cauchy-Schwarz の不等式から、任意の自然数  $m$  について

$$\left( \sum_{k=0}^m \frac{|\nabla f(x_k) \cdot d_k|}{\|d_k\|} \right)^2 \leq \sum_{k=0}^m \frac{(\nabla f(x_k) \cdot d_k)^2}{\|d_k\|^2} \leq S$$

が成り立つ。ゆえに

$$\sum_{k=0}^{\infty} \frac{|\nabla f(x_k) \cdot d_k|}{\|d_k\|} \leq \sqrt{S}$$

となり、この級数は収束することが分かる。したがって

$$\frac{|\nabla f(x_k) \cdot d_k|}{\|d_k\|} \rightarrow 0 \quad (k \rightarrow \infty)$$

となる。

# 最急降下法の大域収束性

特に  $d_k = -\nabla f(x_k)$  をとる. この  $d_k$  は  $\nabla f(x_k) \cdot d_k = -\|f(x_k)\|^2 < 0$  を満たすので, 降下方向である. さらに先に示した結果から,

$$\frac{|\nabla f(x_k) \cdot d_k|}{\|d_k\|} = \|f(x_k)\| \rightarrow 0 \quad (k \rightarrow \infty)$$

を満たす.

Cauchy-Schwarz の不等式における等号成立条件から,  $\|d_k\|$  を固定して考えたとき, この  $d_k$  は  $\nabla f(x_k) \cdot d_k$  を最小にするものである. つまり最も急に減少させるものである. そのため  $d_k = -\nabla f(x_k)$  とする方法を**最急降下法** (steepest descent method) と呼ぶ.

主に以下を参考にした.

- ▶ 矢部博, 新・工科系の数学「工学基礎 最適化とその応用」, 数理工学社, 2006.

また, このスライドのソースコードは  
<https://github.com/pecorarista/documents> にある.